



国際交流員の活動日誌

vol.62



「自転車通勤」 Bicycle Commuting

僕の故郷である米国のシアトル市では、5月は自転車通勤月間です。米国では自転車通勤は1%未満ですが、環境や自分の健康のため、5月に地域の店や会社がテントを立て、飲み物と軽食を配布して自転車通勤者を支援します。父の元勤め先では社員がチームを作り、5月の自転車通勤の累計距離で競争しました。上級管理職が自ら自宅から遠い出張所に勤務し、勝つために毎日数時間かけて自転車通勤したそうです。

日本では電車や車で通勤できるならそちらを選ぶ人が多い。

いようです。天気や上り坂によって自転車に乗るのが辛い時もありますが、雨と急坂が多いシアトル市では自転車通勤は社会的に支援されています。その支援のおかげで公立短大で日本語を一年学べました。家から短大まで45キロ離れていましたが、バス代が高かった朝は自転車通勤しました。学校でのシャワーと帰りのバスの自転車ラックが使えたので、来日の前に少し日本語の勉強ができました。

自動車燃料の値段や地球温暖化が心配になった現代、自転車通勤は考慮する価値があると思います。僕も毎日自転車通勤します。車の渋滞で待ちたくないですし、公共交通機関に頼りたくないからです。通勤は自分の動力と努力で解決したい事なのです。私のように朝から気合を入れた人には、自転車通勤がおすすめです。(トニー)

地域の魅力 ふる里再発見

都市梁川の発展と歴史 - 5 -

松前藩復領200年記念特別展示

松前と梁川

4/29金～5/29日

伊達市梁川美術館



梁川城跡北三の丸復元図

今年は、松前藩が梁川から北海道松前へ復領を果たして200年という記念の年です。松前藩は、文化4(1807)年3月に幕府の命により領地替えとなりました。理由は、松前藩領を幕府直轄地とし、北方口シアからの外庄に対峙するためとされています。

梁川に移った松前藩は、文化5(1808)年に旧梁川城跡本丸内に陣屋を造営します。須田長義が築城し廃絶して以来、使用されることがなかった梁川城本丸内は、松前藩により、約140年ぶりに藩庁として利用されることになりました。また、梁川城下には

100件ほどの家臣やその家族の屋敷が用意されたと考えられています。

当時の藩庁や街並みの様子が、「梁川御在所之絵図」に描かれています。この絵図を基に当時の道割を復元したものが図になります。この図を見ると現在の梁川の街並みが、松前藩時代に完成していたことがよくわかります。絵図には、家臣の屋敷地のほか、興国寺や天神社など松前家ゆかりの寺社が描かれています。

明治には蚕種販売などで賑わいを見せることになりましたが、その骨格は、松前藩時代につくられ、引き継がれたものでした。